

中元竹山展

砥部焼初! 三代の日本伝統工芸士が紡ぐ世界観

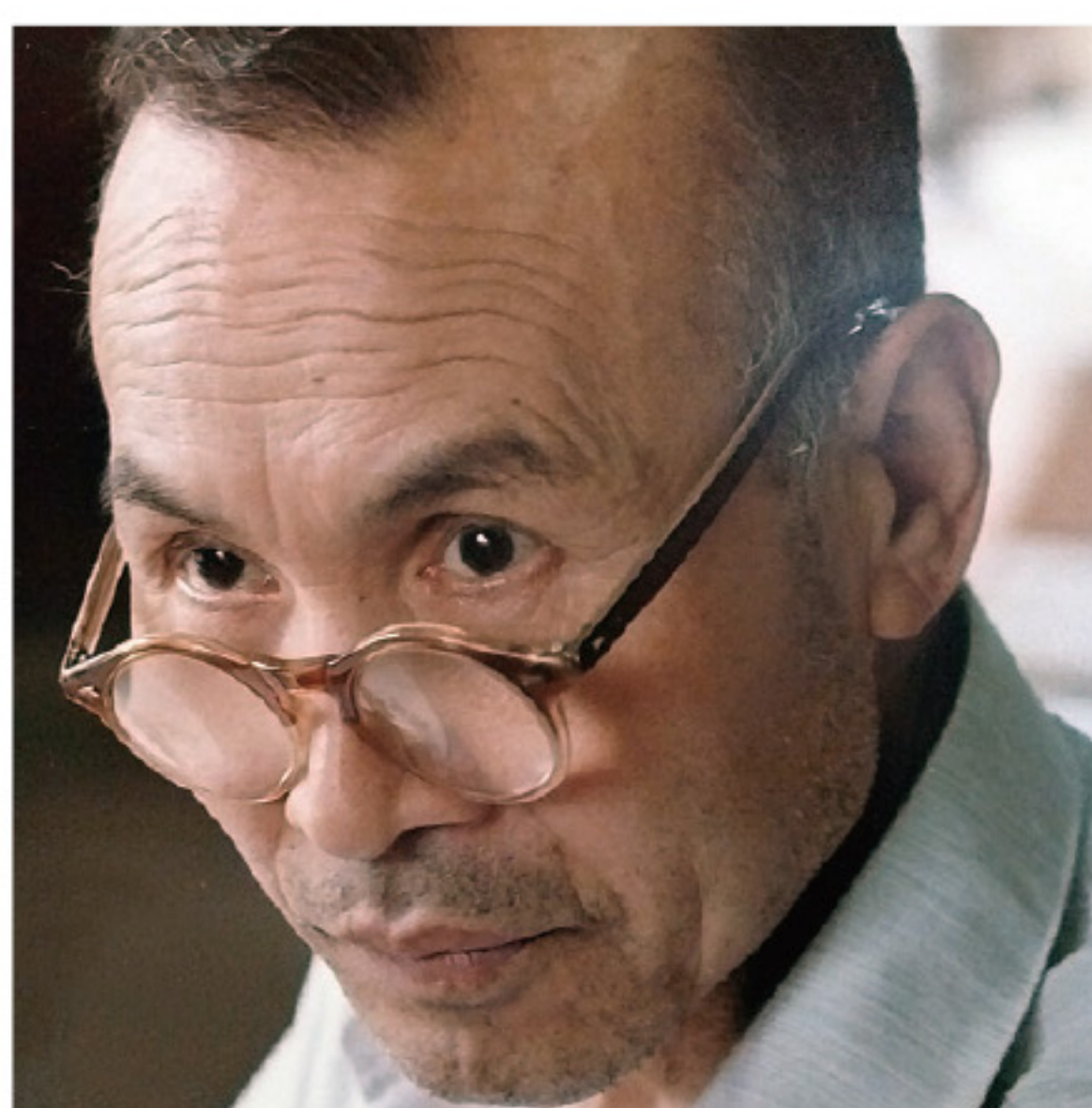
砥部焼を代表する「竹山窯」昭和32年(1957)開窯。当主は初代・中元寅義(故人)、二代目・中元洋一、三代目・中元栄治。三代の「日本伝統工芸士」は、砥部焼初で、砥部焼史に残る名工一家です。

初代(現代の名工・砥部町無形文化財)が細密な手法で絵を描き、二代目が力強くロクロする親子鷹の共同作品は、花瓶(山水や鳳凰画など)など名作ぞろいです。二代目は、初代死後も技術の高い作品を制作しました。三代目は、秘伝技術を受け継ぎながらも、時代の流れから食器中心に転換して独自領域を築いています。

今回の展覧会は、三代で紡いできた優れた陶芸作品や絵などを、初めて一堂に展示しています。



初代作・山水絵花瓶



初代・中元竹山(寅義)



二代目作・辰砂花瓶



二代目・中元洋一



三代目作・立方体染め付け花瓶

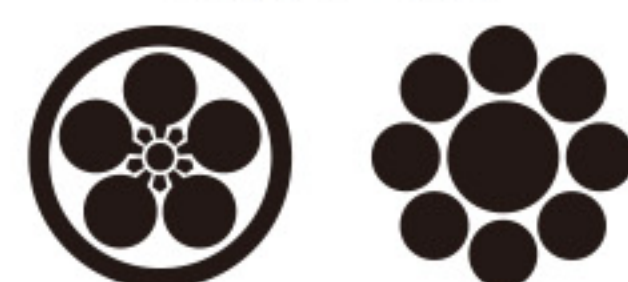


三代目・中元栄治



国登録有形文化財
砥部むかしのくらし館

TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM
SINCE 1905



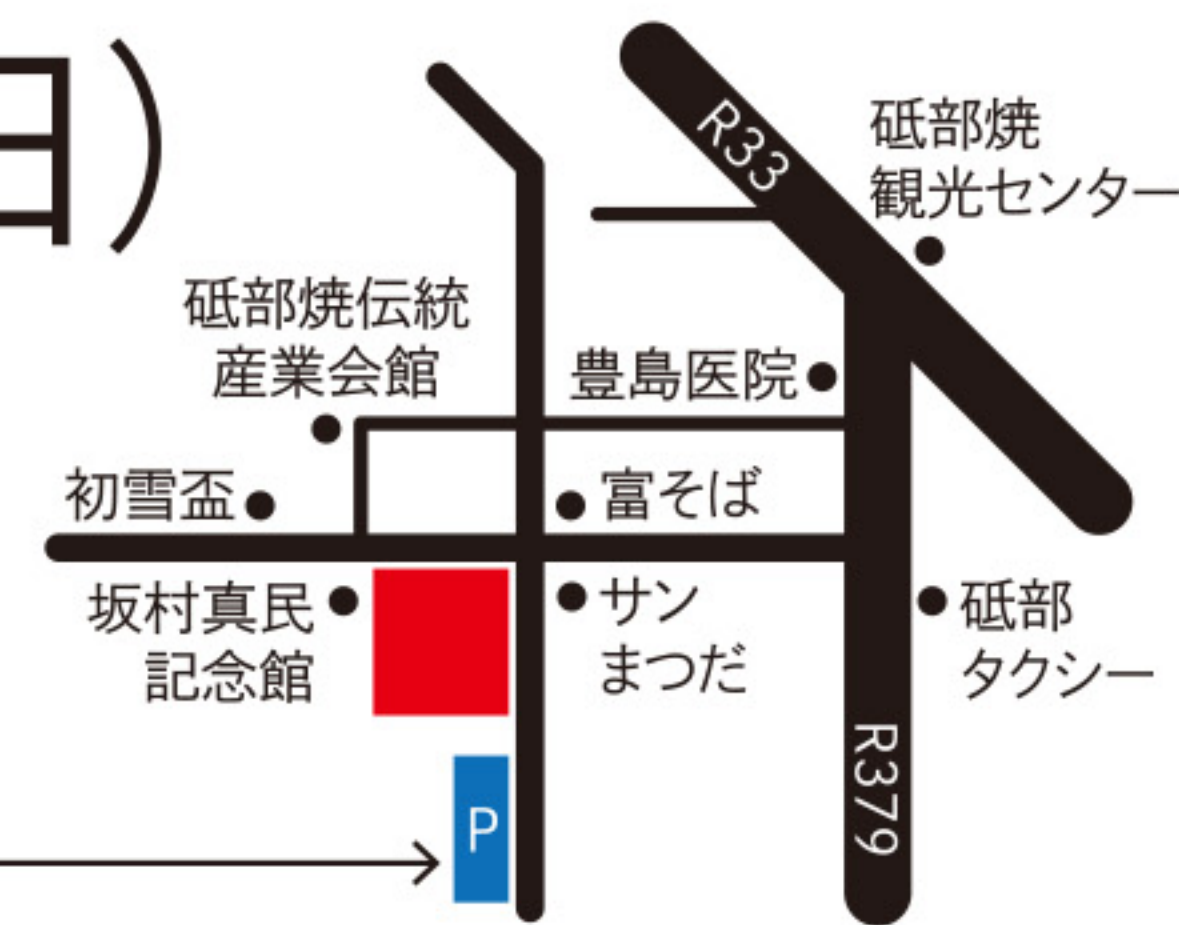
会期：9月2日(土)～2024年1月28日(日)

〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南701 TEL.089-962-5258

開館時間10時～16時(入場無料)、土曜日・日曜日のみ開館

tobe-mukashi-museum.jp

■駐車場のご案内当館南側の『商店街来客用駐車場(無料)』をご利用ください。





国登録有形文化財
砥部むかしのくらし館
TOBE OLD DAYS LIFE & ART MUSEUM
SINCE 1905



国登録有形文化財
主屋 旧梅野商会・蔵



夜着、日本最大級のコレクション

あなたは謎に出会う。

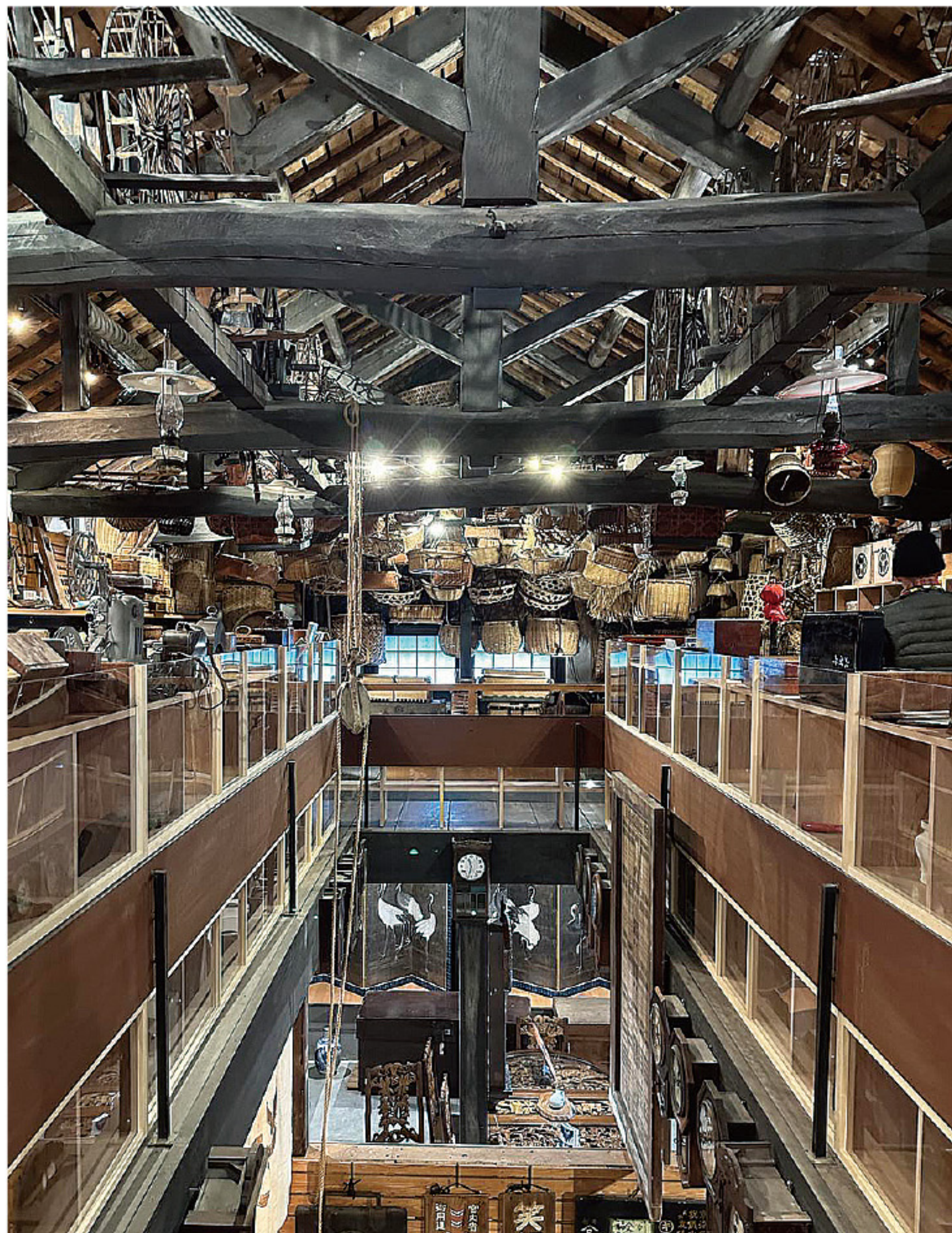
この『砥部むかしのくらし館』は、明治15年より続く現存する砥部最古の窯元「梅山窯」の商いの中心でした。明治38年に現在の場所に「商家」と「蔵」が建てられました。ロゴマークの下には2つの家紋が並べられています。これは梅野家の「丸に梅鉢紋」と豊島家の「九曜紋」です。梅野家の松子(1926-)は豊島吉男(1921-2007)に嫁ぎ、この地に「豊島医院」を開きます。その梅野家と豊島家により連綿として蒐集された膨大な民藝の資料や、民具や

美術品まで収蔵展示されています。そればかりかこの建築物も見どころです。

一度足を踏み入ると、懐かしい空気に包まれます。まず圧倒的な収蔵量の「夜着」は日本最大級のコレクションです。回廊を抜け「蔵」に向かうと2つの屏風が迎えます。そこには「謎」があります。とにかくあの時代のモノたちの「誰がこのようなものを」とか「どうやってつかうのだろう」と次から次に「謎」があなたに語りかけます。異次元な「謎」に包まれた空間を、古き良き日本を旅するようにお楽しみください。



夜着回廊



蔵二階吹き抜け



主屋座敷



主屋、座敷から庭園



淡黄磁



蔵一階屏風